

枝川小学校

僕のみた高知大空襲！



枝川小学校では、6月29日火曜日、高知市の平和資料館「草の家」から岡村正弘館長を講師に招き、平和集会を行いました。集会では、高知大空襲での戦争体験のお話をいただきました。

昭和20年7月4日、高知市は、アメリカ軍の爆撃機の攻撃を受け、多くの家が焼失し、たくさんの方が亡くなりました。その空襲を、岡村館長は小学校2年生の時に実際に体験されています。そして、ご自分の目で見て体験されたその日の夜の防空

壕での様子や、防空壕を飛び出した後の燃えさかる町の様子、すぐそばで知っている人が亡くなっていく怖さ、そして、最愛の家族を亡くされた悲しみなど、紙芝居や爆弾の実物をもとに、低学年の子どもたちにも十分理解できるように心を込めて話していただきました。

体育館に集合するときは、いつもの集会と同じように集まってきた子どもたちでしたが、岡村館長の真剣な語り口や恐ろしい体験に、引き込まれるように熱心に聞き、平和の大切さを実感した様子でした。

平和な社会が当たり前のように感じている自分たちですが、戦争の恐ろしさを再認識しながら、戦争をしてはいけないことについて、しっかり考えることのできた平和集会でした。



6年生児童の感想

高知大空襲の話を平和資料館「草の家」の岡村さんに聞いて本当に言葉を失いました。夜中にアメリカの飛行機B29からたくさんの焼夷弾が降ってくるという空襲の場面を考えてみると、私の想像を絶するものでした。

．．．．．中略．．．．．

防空壕に火が付き、焼けてしまい、火傷で死んだ人が大勢いることを知り、とてもむごいと思いました。防空壕の管理人さんは、自分の命よりも他人の命を優先して、まだ燃え続けている危険な場所にいる人を助けていることが分かり、平和と正義に満ちた情熱的な人たちだと分かりました。しかし、一生懸命頑張って人を助けていたにも関わらず、管理人さんは、とうとう火が全身に付いたので、大火傷をして死んでしまいました。人を助けたのに悲惨な死に方で死んだ管理人さんは、とてもやりきれない気持ちで死んでいったのだと思います。本当は、戦場で人を殺しに行きたくないのに、赤紙というたった1枚の赤い紙切れで戦場へ行かされた、若い青年。何の罪もないのに死に、何もかも失ってしまった人たち。

7月4日 高知県は、高知大空襲の日を迎えます。

二度と、こんな悲しく恐ろしいことはないようにしたいです。

内科
外科
小児科
循環器内科
消化器内科
リハビリテーション科
人工透析

医療法人 森木病院
光生会

院長 森木 光司

吾川郡いの町3674 TEL (088) 893-0014

有料広告